

視点に対する手立て

生活科		①問題提示の工夫 ②体験的な活動の工夫 ③伝える場の工夫		
児童の学習課程	である	かかわる	ふりかえる	
手立て	<ul style="list-style-type: none"> ○身の回りにあるものを使って、簡単に作って遊べたり、遊びを工夫したり、繰り返し改良ができる学習材を選定する。 ○見本を見せ、子どもの興味・関心を引きつける。 ○同じ目標に向かって、試行錯誤させるようにする。(作るものを限定したり、条件を変えたりする) 	<ul style="list-style-type: none"> ○気づきを深めたり、満足感を味わったりするために活動時間を十分に確保する。 ○子どもの気づきを言語化させるために教師が問いかけたり、尋ね返したり、共感したりする。 ○ペアや少人数でのグループ活動を意図的に設定し、学び合えるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○話型を提示して、気づきを発表しやすくする。 ○気づきを言葉で発表させたり、再現して見させたりする。 	

理科		①問題提示の工夫 ②分かりやすい観察・実験、結果の整理の工夫						
問題解決の過程	自然事象への働きかけ	問題の把握・設定	予想・仮説の設定	検証計画の立案	観察・実験	結果の整理	考察	結論の導出
児童の学習過程	問題把握	予想	観察・実験	結果	考察	まとめ		
手立て	<ul style="list-style-type: none"> ○日常では、どのような場面で目にするか想起させて関心をもち、今後に生かせるようにする。 ○生き物を取り上げるときには、生命尊重の視点を大事にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○確かめてみないと分からない問題や不思議さや感動を味わえる問題を設定する。 ○理解させたいことと問題が正対するようにする。 ○導入で興味関心や疑問をもてるよう実験を見せたり、具体物の見せ方を工夫したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○経験をもとに、問題に対する予想を根拠とともに考えさせ、ノートに書かせる。 ○予想を分類したり、予想の筋道を確認したりして、全体で共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○よりよい実験用具の選定・整備をする。 ○実験用具を豊富に用意する。 ○問題を検証するための、素材を数種類要する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○注意事項を見やすく掲示する。 ○操作性や安全性を高め、感動的で分かりやすい観察・実験をさせる。 ○観察・実験中も視点を明確に示し、意識させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○表やグラフ、図などで分かりやすく記録させる。 ○結果を共有するときは、ホワイトボードに書かせたり、グラフにシールを貼らせたりすることで視覚的にとらえさせる。 ○失敗や結果のばらつきは、なぜそうなったのかを検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○考察に書く視点や文型を提示する。 ○予想やその根拠、観察・実験結果を比較させて、問題について考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童の言葉を生かしてまとめる。 ○新たな疑問を次時につなげる。